

STAGE+を楽しむ(45)(HP 収載)

—ヘルムート・ヴァルヒャを聴く(2)—

1. 始めに

前報(45)に引き続き、STAGE+のヘルムート・ヴァルヒャの演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、ヘルムート・ヴァルヒャのアルバム演奏を選びました。

J.S.バッハ：フーガの技法

ヘルムート・ヴァルヒャ（オルガン）



ヨハン・セバスティアン・バッハ フーガの技法 BWV 1080

コントラプункトウス 1

コントラプункトウス 2

コントラプункトウス 3

コントラプункトウス 4

コントラプункトウス 5

コントラプункトウス 6 《フランス様式の 4 声のフーガ》

コントラプункトウス 7 《拡大と縮小による 4 声のフーガ》

コントラプункトウス 8 《3 声のフーガ》

コントラプункトウス 9 《12 度における 4 声のフーガ》

コントラプункトウス 10 《10 度における 4 声のフーガ》

コントラプункトウス 11 《4 声のフーガ》

第 16 曲: 8 度のカノン

5 度の転回対位法による 12 度のカノン

3度の転回対位法による10度のカノン

反行形による拡大カノン

コントラプンクトゥス 16 (正像)

コントラプンクトゥス 16 (鏡像)

コントラプンクトゥス 17 (正像)

コントラプンクトゥス 17 (鏡像)

第18曲: 3つの主題による4声のフーガ

ヨハン・セバスティアン・バッハ 前奏曲とフーガ ハ長調 BWV 547

ヨハン・セバスティアン・バッハ トリオ・ソナタ 第1番 変ホ長調 BWV525

ヨハン・セバスティアン・バッハ トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調 BWV 564

第1曲: トッカータ

第2曲: アダージョ

第3曲: フーガ

ヨハン・セバスティアン・バッハ トリオ・ソナタ 第6番 ト長調 BWV 530

ヨハン・セバスティアン・バッハ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565

フーガの技法のオルガン版とその他のオルガン曲が収録されています。

第18曲: 3つの主題による4声のフーガまでがフーガの技法で、その他のオルガン曲のうち2曲が前報(44)と重複しています。

フーガの技法は鍵盤楽器全般で演奏される技法として対位法による曲ですが、ヴァルヒャによる整然とした演奏です。収録年代は不明ですが、予想外にクリアーで、技法の変化がよく分かります。

その他の5曲も、バッハのオルガン曲は、このように演奏すべきとの模範のような演奏で、音質もクリアーであり、ペダル領域の音階も明瞭です。

以上のような名演奏が、配信で手軽に聴けることはありがたいことです。

以上